

③ 本キャンプ 【セカンド】【サード】【フォース】

1. 企画運営のポイント

- (1) 本キャンプを「セカンド【獲得】」「サード【グループ】」「フォース【成長】」の3つのステージに分けて、ステージごとのねらい・活動のポイントを明確にして実施した。
- (2) 「他者の特徴を知るための時間」「活動プログラムを習得する時間」「活動前の話し合いの時間」「自分の考えをまとめる時間」「1日のふりかえりの時間」を十分に確保するために、ゆとりのあるプログラムを編成した。
- (3) 「サード【グループ】」で、グループ間の協議が活発になるように、グループの話し合いで決める活動（グループキャンプタイム）を設定した。
- (4) 「フォース【成長】」で、個人の成長を実感できるように「個人の能力で決める活動（赤城山選択登山）」を設定した。
※日程を短縮したため未実施。

2. 日程・主な活動

日程	活動
8月6日(土)	・開会式 ・アイスブレイク ・チームMT①「どんなチーム旗を作ろうか？」 ・野外炊事「カレーライスづくり」 ・眼の検査 ・ふりかえり
8月7日(日)	・クラフト体験「かんな箸・マイスプーンづくり」 ・テント設営 ・レクリエーション「オリエンテーリング 等」 ・ナイトプログラム「自然観察」 ・チームMT②「明日は何しようか？」 ・ふりかえり
8月8日(月)	・洗濯 ・選択レクリエーション① ・野外炊事「バーベキュー」 ・登山MT「どの山に登ろうか？」 ・ふりかえり
8月9日(火)	・野外炊事「朝食づくり」 ・チームMT③「グループキャンプタイムで何をしようか？」 ・グループキャンプタイム ・ふりかえり
8月10日(水)	・グループキャンプタイム ※テント片付け ・お別れパーティー ・ふりかえり
8月11日(木)	・ふりかえり ・閉会式

※あかぎ無限大キャンプの様子が、マスコミ各社に取り上げられた。

・令和4年8月7日(日) 群馬テレビ「SUNDAY ニュースジャスト」

・令和4年8月9日(火) 上毛新聞 16面掲載

3. 活動の様子



野外炊事（焼きそば）



野外炊事（朝食）



レクリエーション



テント設営①



テント設営②



群馬テレビ取材



朝のつどい



チーム旗づくり



ふりかえり

4. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：22人(100%) やや満足：0人(0%) やや不満：0人(0%) 不満：0人(0%)

(2) 成果

- ・グループキャンプタイムの料理を既習の「カレーライス」「焼きそば」「朝食作り（パン）」の材料にしたことで見通しをもって3食分の献立を立てることができていた。また、参加者の自発的な調理につながった。
- ・参加者アンケートで、「自分たちで考えて決める活動が楽しかった。」「グループのレクリエーションが楽しかった。」等の感想が見られたことから、グループで考え話し合う活動が、参加者の挑戦意欲の向上やグループへの所属感につながったと考える。
- ・本キャンプの1カ月後の保護者アンケートで、「家の手伝いを自分からするようになった。」「(自分から)〇〇してみよう。」という感想から、本キャンプのプログラムが参加者の自発的な行動につながるきっかけの一助になったと考える。
- ・本キャンプ後に、「あかぎ無限大キャンプ」で学んだことについて上毛新聞読者投稿欄に自発的に投稿した参加者がいた。
(令和4年8月27日 上毛新聞 13面掲載)

【上毛新聞掲載内容】

ぼくは、夏休みに国立赤城青少年交流の家で開かれた「あかぎ無限大キャンプ」に参加しました。キャンプが好きだから応募しました。

初めは緊張したけれど、最初のレクリエーションでみんなの名前を覚えてだんだん仲良くなりました。自分でテントを張り、山で寝るのは気持ち良かったです。

野外炊事では野菜を切ったり、皮をむいたりしました。火おこしでは、よく燃える木の皮を拾ってきたりして、ぼくは火おこし名人と言われました。自然観察ではシカや流れ星が見られました。

7泊8日の予定だったのが短くなったけれど、5泊もできて、最後の夜はみんなで集まってマシュマロを食べたりアイスを食べたりしました。

この夏、ぼくには無限大キャンプの仲間ができました。またどこかで会える日を楽しみにしています。

(3) 課題

- ・レクリエーションや野外炊事への取りませ方を工夫し、グループの話し合いが、参加者にとって、より「必要感」があるものにする。
- ・キャンプ参加前を含む、参加者の健康状態の維持と把握の仕方を工夫すること。